

第3回 安曇野市文化財保存活用地域計画策定協議会会議録概要

1	協議会名	安曇野市文化財保存活用地域計画策定協議会
2	日 時	令和6年7月30日(火) 9:30~11:30
3	会 場	安曇野市役所本庁舎 301会議室
4	出席者	笹本正治会長、大澤慶哲委員、場々洋介委員、加藏友美委員、佐藤亜希子委員、山根宏文委員(オンライン)
5	市側出席者	文化課長 三澤新弥、文化財保護係長 堀久士、文化財保護係 斉藤雄太、山下泰永 支援事業受託者(株式会社KRCあづみの事業所) 環境計画室長 藤村忠志、環境計画室 長尾山音
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人 0人	記者0人
8	会議録作成年月日	令和6年8月10日

1 開 会

2 あいさつ

会 長：私たちの大好きな安曇野市の未来のためには、文化財をどう保存し、活用していくか、大変大きな課題。少しでもよい市にしていくために、そして、未来の子どもたちにより形でバトタッチができるように、本日も是非、皆様のお知恵を拝借したい。

3 議 事

(1) アンケート調査結果の報告(資料1)

(2) 調査結果の反映方針について(資料2)

【事務局及び支援事業受託者から資料の説明】

会 長：私たちにとっては、今後、このアンケート結果は大変重要な基礎になる。改めて、ここまで丁寧の説明いただいたことに感謝する。

予想した通り、市民がいかに「自然」や「水」に対して興味を持っているかが見える結果となった。しかし、市民の意識するものと文化庁が意図している「文化財」とには差があり、この差をどう埋めていくかが最大の課題になるだろう。いずれにせよ、アンケート結果は大変素晴らしい内容で、その分析の仕方も大変素晴らしいと思う。

委 員：私は安曇野市で、県外から来られた人たちの観光調査を10年程やっており、約1万人のアンケート用紙を読んできた。観光客の安曇野に対するイメージと、この市民アンケート結果はほとんど一緒となった。安曇野によく訪れる人には圧倒的にリピーターが多い。リピーターは、特定の施設にのみ行くのではなく、安曇野に泊まって色々な体験をして、住民と同じような暮らし・文化に触れてみたいという人が多い。ただ残念なのは、ほとんどが一泊程度であり、もう少しそのようなことを提供できれば、滞在型の観光客はもっと増えると思う。アンケート結果と分析から素晴らしいと方向性が示されたと思う。

文化に重要なのは、やはり教育だと思う。他所から来た人や、あまり関心のない人に興味を持っていただくことは難しいので、幼い頃から自分たちの地域の魅力はすごい、地域を誇

れるという教育が一番大事だと思う。

イタリアの食文化は豊かだ。その根底には農業学習があり、小学校の時にみんな農家に行き、地域の食材を食べ、伝統料理などを学びながら、地域に対する誇りを持たせる教育が徹底されている。例えば、「田園風景を守れ」と言うが、安曇野の米を食べているのか。美しい田園を守るのであれば、みんなで支えていかなければならない。イタリアではそれが徹底しているし、スイスも美しい田園景観を守り、そういうことをやっている。これらを踏まえ、誇りを持ってもらうことが一番大事ではないか。

安曇野の水が美味しいと言われるが、もう少し具体的に数字を出すと信憑性がある、みんなが納得してくれると思う。例えば、松本市では源智の水が美味しいと言われている。安曇野の水は地域によって水質が違うが、源智の水と変わらない美味しい水が水道から出てくる。これを数字ではっきり示し、水の良さなども教えながら、子どもたちに、ただ美味しいだけでなく、具体的な話をしながら、地域の魅力を感じてもらい、誇りを持って育ってもらうことが大事だと思う。

お祭りについて。私は今新潟の学校で教えているが、全国どこでも若者の現代的な祭りが主流になっている。伝統的な踊りは注目されないが、若者の現代的なものには皆が集まってくる。本当にこれでいいのかと最近感じた。

暮らしについて。当たり前で気づきにくいのが、安曇野らしい暮らしは、それがブランドになり、素晴らしいものではないかと思う。本当の当たりの暮らしを大事にしなければならない。

景観について。私は安曇野市の都市計画審議会の委員にもなっている。条例に違反していないと言って、建物がどんどん建てられるが、美しい景観は壊されていく。暮らしと景観はセットなので、厳しい規制をしながら、安曇野に来た人には美しい景観を守っていただきたい。私が初めて安曇野に来た時、富良野、美瑛と安曇野は同格だと思っていた。ある程度は仕方ないことであるが、これ以上景観を壊さずに守っていただきたいと思う。

会長：今の意見には今後の安曇野をどうしていけばよいかという大きなヒントがある。本日ここでは結論を出すのではなく、色々な意見をいただきたい。

委員：アンケートの結果を見て、「やっぱり」と思った。安曇野と言うと、「水」や「景観」が出てくるが、1970年頃のディスカバー・ジャパンで急に安曇野に観光客が増えた。それまでは観光目的で安曇野に来ると言う人はそれほどいなかった。そもそも「安曇野」という言葉を使うこともなかったと思う。残されている生活、いわゆるノスタルジーな感覚をくすぐるようなものがあちこちで取り上げられ、一気にブームになり、そういう考え方が市民の全体に浸透してしまったのかなと思った。

地域で暮らすということは、お互いに迷惑をかけ合って、お互いに足りない部分を補って一緒に暮らしていくというのが元々の文化だった。私たちの生活様式が変わってしまい、そういうものが全くなってしまった。特に「婚」と「葬」は、元々はその地域みんなで支え合ってやっていたが、真っ先に「婚」が地域からなくなり、今は「葬」も全部業者に頼めばいいという風になってしまった。お互い同士が迷惑をかけ合い、支え合って生きていく中に様々な文化財があったのだと思う。生活様式がすっかり変わってしまい、そういうものをどう活用していくかということは、またちょっと違う視点で考え直さないとなかなか上手く

いかないのではないか。

会長：大変重要な意見。一方で、中学生のアンケートの「自分にとっての宝物を1つあげてください」の設問結果には少し感激した。1番多かった回答は「家族、友達」とある。つまり、人の繋がりをこれだけ大事にしてくれている人たちがいることは、今後の大きな宝物になってくると思った。

文化財としての景観は安曇野市ではきちんと指定されていない。本当に大事だったら絶対残すべきだという空間をきちんと選出し、「手出しをしては困る」というのが、文化的景観だと思う。長野県では飯山市小菅と千曲市の棚田しかない。現状北信だけなので、安曇野に文化的景観をきちんと定め、国からも保証してもらう必要があるだろう。所有者個人の問題等を含めて、どうしたら網を被せることができるか。個人の財産と風景との関係。例えば就農しても、生活が成り立たなかったら離農するのは当然の話だが、では大事な景観を形成している農業、農地を文化財としてどうするかは、今後の課題になるだろう。

委員：アンケートの結果を見て、上位に来るのはやはり「北アルプス」や「山」、「農業景観」で、「屋敷林」もこの中に入るのかなと思った。

学校での総合学習・地域学習が重要だと思うが、課題だと感じることは、学校で地域の勉強をする機会を得ることがなかなか難しいという現状である。やはり子どもの頃から地域の良さを改めて知る機会を作ることが非常に大切かと思う。この仕組みを作ること、文化財の保存活用計画に大きく位置付けるべきではないか。

一方で、文化財の所有者・管理者等のアンケート結果を見ると、人的、経済的、防災の面でもあまりよい条件の中で運営されていないのではないかと読み取った。

今、地区の氏子総代をしているが、コロナの影響で地区のお祭りは4年間実施されていなかったが、今年は実施する。アンケート結果にも地域のお祭りというものの大切さが非常にしっかり書かれていた。お祭りでは、お船を作って穂高神社と同じように飾り付けをする。住民有志でお船保存会ができ、笛、太鼓を2日間演奏するが、学生が主となり練習をしている。改めて地域の祭りは大事だとつくづく感じた。

会長：文化財の一つとしてお祭りは大変重要である。一方、防災上もとても大きな意味を持つ。これから先、災害が起きた時に、平日頃横に、縦につながっていると、助け合うことができる。その意味でも、祭りをどう維持していくかが、安曇野にとって大きな課題になってくると思うので、この点も考えていきたい。

アンケート結果でもう一つ面白いと思ったのは、中学生保護者アンケートの回答者の9割が女性であったことである。

委員：「お祭りへの具体的ななかかわり方」の回答では、明科地域在住の市民が「当日の神事や、運営等へ参加している」と答えた比率が高いことがわかった。人口が少なくなっているかもしれないが、地域のつながりが強いということが、お祭りに参加することにも繋がっているのではないかと思った。

また、「年中行事、季節の催事に関する設問」では、「お歳取り」、「歳神様」がこれだけ多く浸透していることも、全国的には非常に珍しいことなのかと思う。「お歳取り」を安曇野の文化としてアピールするのもよいのではないかと思う。

「個人で所有する地域の宝物の建物や樹木等の近年の衰退」については、市職員の回答で

は「個人の資産だから継承の衰退は止むを得ない」という回答が多い一方で、市外から移住等して来た多くの回答者は、自分では持っていないから残してほしいと言いやすい面もあるのだと思う。地元の負担の重さ、大変さがわかっているからこそ、この数字が出るのかなと思う。負担を減らすという施策としては、金銭面のサポートが行政からあれば、所有者等も良くなるのではないかと思った。

子どもたちが授業をきっかけとして博物館や美術館に足を運ぶということは、とても素晴らしいことだと思う。一方で、博物館はドヤドヤと訪れるとは相入れないという面もあると思う。子どもたちは賑やかな子もいれば、保健室でそっと静かにしていたいという子もいる。そういう子たちも、もしかしたら教室には行けないが、博物館には行けるという子たちがいるのではないか。そういう子たちを拾い上げることができたらと思った。

会長：とても大事だと思う。安曇野と一括りに言うが、安曇野市は旧東筑摩郡と旧南安曇郡がセットになっていて、明科地域は旧東筑摩郡で、過疎化が進んでいるように見える。アンケート結果では、地域共同体としての古い形をきちんと保ちながらも、一方で人口が減っている。そういう地域と人口が増えているところは一樣ではない。そのあたりも含めて考えていかなければならない。

それから、博物館の話題が挙げられた。安曇野市は博物館をどうしていくかを今協議している最中である。博物館の在り方について、アンケート結果にも「専門家の意見を聞きたい」など、たくさんの意見が出ており、それを実現していくためにも博物館の在り方の大きな鍵になってくるのではと思う。「博物館浴」と言って、森林浴と同じような効果があると言われており、実証実験が次々とされている。多様性のある子どもたちに対して、私たち、博物館施設がどう動けばいいのか、大きなヒントをいただいた。

国ではお金を地方文化財にだんだん出せなくなっていて、各地域で観光等を交え工夫して多くの人に来てもらい、そのお金で文化財を守ってもらうというのが、文化庁の大きな流れだと私は勝手に理解している。そういった意味では、観光は非常に重要。

委員：アンケート調査の結果は、統計学的に十分耐えうる情報量だという説明があったが、市役所職員の回答数がもう少し欲しかった。また、各学校でも、回答数が地域によって差が出てきてしまったことも、校長先生、教頭先生の考えがあるのか、地域の温度差が学校教育の中でも出てしまったのか、と感じた。

行政の文化財の保存活用に対しての具体的アクションの資料を見て、本当にすごいと思った。どうしても単独の課で動きがちになってしまうことがあると思う。私は東部アウトドア拠点の委員もやっており、明科に東部アウトドア基地を作る目的で視察に行ったが、新しく作るものと残すもののバランスもあると思う。市役所は大きな組織で、大変だとは思いますが、横断的に色々情報共有しながらやっていただけるといいと思うし、そこに観光、楽しむという要素を加えながら、堅苦しくなく、楽しみながら一緒に考えていきたい。

会長：少なくとも市の行政を担っている方には、もっとご意見をいただきたいというのは、私も同じ考えである。

それから、分野を超えてやっていかなければならないというのは、どんな場合でも同じ。他の市より安曇野市は行政組織がコンパクトなので、横の連携は比較的取りやすいと、期待する。

今回、アンケートの実施、集計及びまとめは、本当によくやっていただいた。これは委員全員の気持ちである。感謝する。さらに前に行くために頑張っていたきたい。

アンケート結果を前提にして私たちはこれから動いていかなければならないが、今回の状況を見ると、理解されていないことがたくさんあると感じた。とくに、私たちの思っている「文化財」と市民が思っている「文化、あるいは風景」との間に差があり、場合によっては、指定しなければならないことや、協力を仰がなければならないものがたくさんあるように思う。

今年 11 月に日本博物館協会の全国大会が松本市で行なわれる。松本市立博物館を中心に日本全体の博物館大会が行われ、そのテーマは「博物館と観光」である。文化財のこれらを考えるときに、観光はとても大事であることと同時に、観光の問題を考えていかなければならないということが全国の博物館の研究テーマになっている。安曇野市も色々関わってくることになると思う。協力をお願いしたい。

(3) 市民向けワークショップについて (資料3)

【事務局より資料3の説明】

会 長：計画を作るに際し、ワークショップを開いて、地域住民と考えながら今後の計画を作っていくとする姿勢が素晴らしいと思う。同時に、安曇野には NPO 法人安曇野ふるさとづくり応援団、「学校ミュージアム」といった、学校に積極的に働きかけ、非常に丁寧な活動をしているのが特徴だと思う。

ワークショップの実施方法について、皆さんからいろんなご意見いただき、最終的には事務局で決定していただければと思う。

委 員：参加人数、対象者の設定はどうするのか。例えば親子を対象にすれば、条件、視点が変わってくると思う。

事務局：募集方法は「広報あづみの」、市のホームページ等を考えている。一般を対象に、開催日は土日を考えている。

受託業者：おそらく一般が主になると思う。子どもの参加は実際難しいと考えるが、どんな方に来ていただいても対応できるような準備はできるので、対象者については市とも相談する。

会 長：少しでも多くの方に関心を持っていただきたい。

個人的には、市の職員の意識を高めるようなことも希望する。うちの委員には素晴らしい人たちがいるため、委員が講師となることも可能。市の職員は最前線で市を理解してもらわなければならないため、ワークショップ以外にもぜひお考えいただきたい。

委 員：私から 1 つ提案として、年齢層を分けて実施いただきたい。私の年齢ぐらいだと「親子で参加」という前提があると、申し込みを躊躇してしまう。その逆も然りで、「大人向けのかな」と感じると、子どもが申し込みを躊躇してしまう。説明する側も、大人に向けてと子どもに向けてでは大きく違うと思うので、みんなが楽しく満足するという意味では、思い切って年齢層を分けて募集するのも 1 つの手であると思う。

会 長：いかにして、市民に深く理解浸透させていくかが大事である。参加希望者が敬遠することのないように、限定することによって逆に興味を失うことがないように、その辺も少しお考えいただきたい。

委員：ワークショップ会場の一つの候補として、明科地域、特に潮沢地区の廃村状況を見ていただきたい。我々の暮らしが変わることによって、山の中の暮らしが失われていった。一体それはどういうことかということも含め、実施してもらおうと非常に面白いのではないか。たかだか数軒の集落で、大きな神社、お堂も持っている。時代とともにどう変わっていくかというところも含めて、非常に象徴的ではないか。

会長：来年、長野県立歴史館の企画展では、できたら目玉の1つとして、光久寺の善光寺仏師が彫った仏像を展示したい。非常にいい場所でありながら、光久寺は無人になってしまっている。色々考えていただく機会としたい。現状に至るまでの変化を追いかけながら、その向こうに未来を作っていくことが最も大事な点。どちらかという、安曇野は平坦な所、特に豊科地域を中心とするような視点が主になりがちだが、かつては明科廃寺から始まり、色々な文化を伝え、今でも頑張っている明科地域では是非ワークショップをやっていただきたいと思う。移動手段、何をみせるかと多くの課題はあるが、1回は明科でやっていただければと思う。

個人的で申し訳ないが、今後、文化的景観の場に選定されるような場所は見えておいていただきたい。あくまでも例えばの話だが、安曇野では、拾ヶ堰のような用水を作ったことによって人々の生活が潤い、新田開発がされ、村ができた。そういう安曇野の成り立ちの分かるような場所、あるいは、安曇野にとってこれだけ風景が大事だとすると、今後、風景や水を守っていくための拠点になるようなところも是非考えていただきたい。また、そういった場所も、できたら広報紙に載せ、ワークショップそのものが働きかけであり、どこに着目しているかという私たちの今後の動きの一端でもあると思っている。できればそのあたりも候補の中に加えていただけたらありがたい。

委員：文化的な景観はとても大事だと思う。日本でかつて民芸運動というものがあつた。海外では文化的な景観をセットにして残すという伝統文化が徹底されたが、日本では物だけに焦点がなくなってしまった。この美しい安曇野は、私も20年前に来て憧れたが、20年たつてガラッと変わってきている。全市を挙げてこの文化的景観を守らないとダメである。スイスは田園、山が美しく、観光国だ。国策で農業と景観を守ることが憲法で定められている。安曇野はとても素晴らしい所なので、こういったものを守り続けていただきたい。また、子どもたちがどんな魅力を感じるか、大人、皆で支えながら、子どもの意見を中心に考えていただければいいと思う。

アンケートのまとめを作ってください、本当に感謝したい。この会議だけでなく、とても役に立つ。今まで色々な会議に出てきたが、これだけきちんとされたものを初めて見せていただいた。今後活かしたい。

会長：財政を豊かにするためには、企業が来た方がよいという考えがある。逆に言えば、「市民全体で負担しながら、この景観を守ろう」という機運がなければ、一部の所有者等だけの負担になってしまう。皆が「風景がいい」、「水が大事」と言うのであれば、お互いに我慢し合ったり、もっと良い所、大事なところを伸ばしていくことが必要。そのためには、一般的な工場誘致のような形ではなく、安曇野らしい行動、形というのが必要であると思う。私たちの少し長い視野の中に入れながら活動していきたいと思っている。

今日は非常に重要なアンケート結果、しかもそれを非常に細かい点まで分析していただい

た。結果だけだったら簡単であるが、よく読み込んで、私たちにわかりやすく説明していただいた。本当に感謝する。今日も色々な参考になるご意見をいただいた。私たちはそれを前提にしながら、きちんと安曇野市の文化財保存活用地域計画ができるようにしていきたい。皆さんの負担もそれだけ大きくなるが、引き続き覚悟を決めて委員として動いていただけたらと思う。

4 今後の予定ほか

【事務局より今後の予定等、アンケート結果の公開について説明】

会 長：本当に役に立つアンケートであるため、結果がオープンになるときには連絡していただきたい。

事務局：承知した。

5 閉 会